

○中島委員

次に、リニア中央新幹線と南アルプス、この環境対策についてお尋ねをさせていただきたいと思うわけですが、大臣も静岡が御地元ということで、南アルプスがかかわっていることと思います。

ちょっと余談になりますが、大臣、リニアモーターカーを試乗されたと思いますが、感想でもいいです、お聞かせ願いたいと思います。

○望月国務大臣 リニアモーターカーに私も、大分前の話でありますけれども、試乗したことがございます。

やはり、リニアモーターカー、まさか車輪がなくて浮いて走るなんということも我々の当時の想像を絶するものがあった、そしてまた、そういうことを見ると、やはり日本の技術というものには世界最高なんだなということを感じた一方で、時速五百キロというようなスピード、今は五百キロですということでも走りましたけれども、やはり騒音だとか風圧というもの、これが相当あるんだなというようなことも実は感じたりもいたしました。

やはり、山梨の、あつという間のスピードですから、何キロだったかちょっと忘れましたが、あれだけの長い距離を走っても、周りは自然豊かな場所でございますので、やはり環境対策の重要性、そういったものをあそこを走的过程中で我々は感じました。

そういうような、もう大分前の話でございますので、そんなことを感じたということでございます。

○中島委員 ありがとうございます。

地元の山梨も、このリニア中央新幹線に大変期待が高まっている、二〇二七年の開業目標も決まって大変期待が高まっているわけですが、その一方で、やはり不安の声も出ているのも事実です。

大臣も今、自然豊かな地域を通るということ、その辺も感じられたということですが、今回のリニア中央新幹線、南アルプスを通させるという計画になっておるわけですが、まさにその南アルプスが去年の六月にユネスコのエコパーク登録承認をされました。日本では七カ所目の大変喜ばしいことであるわけですが、南アルプスがまたがる山梨、静岡、長野の三県から、リニア中央新幹線の建設が南アルプス地域の環境に多方面での影響を及ぼす可能性が不安視されているということ。

JR東海から出された環境影響評価書では、路線の一部は厳重に保護される、核心地域や、研究、レジャーに利用される緩衝地域を通過するが、南アルプスでは全てトンネル構造となることから、地表面は改変しないから大丈夫だというような評価書も出ていて、当時の石原大臣にもお尋ねをして、石原大臣も大変危惧されていたわけですが、地表面を改変しない、トンネルなんだから大丈夫だ、本当にそのようなことでもいいのかと私も非常に危惧するわけです。

当然ながら、トンネル、これは実は予算委員会で国交大臣にもお尋ねをさせていただいて、本当に大丈夫なのかというお尋ねをしたところ、日本の最新の技術を駆使すれば間違いなく大丈夫だ、心配要らないという、ある意味、逆に不安になるような御答弁をいただいたわけですが。

大臣として、JR東海の評価書、本当にそのようなことでもいいのかどうか。大臣の見解をお伺いいたします。

○望月国務大臣 このリニア中央新幹線でありますけれども、その事業規模、非常に大きな規模でございます。相当なトンネルを掘って土砂も出たり、さまざまなことがございます。ですから、相当な環境負荷が発生する、我々はそのように懸念をしていますし、国交大臣に対する環境アセスも、ある意味では非常に厳しいものを出してございますが、具体的には、環境影響評価法に基づく環境大臣意見で述べましたとおり、これは相当な電力消費に伴う温室効果ガスの排出、あるいはまたトンネルの掘削に伴う大量の残土の発生、多くの水系を横切ることによる地下水や河川への影響等の可能性が考えられまして、十分な環境保全措置を求めています。

また、ユネスコエコパークにつきましても先生今御指摘ございましたが、本事業の実施がユネスコエコパークとしての価値を損なうことがないように配慮をしながら、こういったことも我々は環境アセスの中で求めています。

JR東海が事業主体でございますけれども、この事業の具体化や実施に際して、責任ある事業主体として、環境大臣意見の内容を踏まえ、具体的かつ適切な環境保全措置を講じてもらう、こういうふうにしていただきたい、このように思っております。

○中島委員 まさにそのとおりだというふうに思います。

トンネルを掘った、今までかつてない、リニアのほとんどがトンネルということで、南アルプスのみならず、ほかの地域によってもかなりそういうたてつけになっている。そういった中で、南アルプス、水脈系への影響というのも非常に懸念されるわけです。

一度そういったものが壊されてしまえば、これは二度と回復できない大事な財産、それを失う可能性も否定できないわけでありまして、この辺については、先日は水俣条約関連法案も通りました。そういった中で、経済発展にばかり目が行って、その後必ず禍根を残すということがないように、これもやはり、先ほどの温室効果ガス目標も含めて、環境省の立ち位置として明確に意見を述べて、慎重かつ丁寧に進められていくように、また大臣にもリーダーシップを発揮していただきたいというふうに思います。